

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 見附市立葛巻小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒954-0085

新潟県見附市反田町10番地

E-mail kuzumaki@mitsuke-ngt.ed.jp

Website http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/~kuzumaki/

幼児児童生徒数 男子 202 名 女子 196 名 合計 398 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

☆森の楽校『くりりん』プロジェクト

当校では、創立70周年の記念事業として学校の敷地内に地域住民と保護者・児童で学校の森づくりを行った。森は「くずまきの森」と命名され、今日まで児童の教育活動の場、地域住民の憩いの場となっている。

今年度、くずまきの森の一層の活用を図るために「森の楽校『くりりん』プロジェクト」を立ち上げた。児童が「くずまきの森」をフィールドに、人・もの・ことにかかわりながら森に親しむ活動を展開することにより、当校の目指す子ども像「ふるさと葛巻を愛し、人のためになることを考えて、実行する子」の実現を図っていく。

第1弾として、「くずまきの森の歌を作ろう」では、作曲をアコースティック・デュオ「ひなた」にお願いし、くずはフェスティバルで保護者、地域の方々に歌を披露した。

第2弾は、「くずまきダッシュ池！生き物再生作戦」。自然委員会児童、教職員による池清掃、葛巻地区企業による「くずまきの森の池」橋完成、見附市ボランティア協議会「市民の森」協力による水生植物、刈谷田川水系の魚放流等実施した。

第3弾は、「もっと楽しく遊べる森にしよう」。2年生児童が生活科において秘密基地づくり、PTA親子活動での鳥の巣箱作りを実施した。



#### ☆チームで取り組むアースプロジェクト

これまで行っていた環境エコ活動を、更に子どもたちを中心とした活動へと導くため、今年度から一人一人の児童が関心をもった3つの活動に自主的に参加しチームで活動するようにした。

①「チーム食べるん」は、苦手な子どもたちが多い野菜を自分たちで育てて、好き嫌いを少なくし、給食の残量が減ることを目指した。子どもたちが選んだ野菜（ピーマン、にんじん、ジャガイモなど）を育て、収穫した。

②「チーム守るん」は、グリーンカーテンを管理し、室内の温度を下げることでエアコンなどの使用を最小限にし、消費電力を抑えることで地球の環境を守ることを目指し、ゴーヤ苗の植え付けや追肥、水やりなどの世話をした。

③「チーム咲かすん」は、学校周辺を自分たちの育てた花で美しく飾ることで、楽しく元気な学校にしていくことを目指し、苗植え、日々の水やりや咲き終わった花の摘み取りを行った。その成果が認められ、「みつけお花いっぱいコンテスト」では、優秀賞をいただいた。

また、こうした3つの取組が評価されて、「みつけエコスクールチャレンジ2017」で1位の最優秀賞を受賞した。



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他 (休み時間・委員会活動・生活科 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

ユネスコスクール公式ウェブサイト (各校の取組紹介)
----------------------------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

校地内の手作りの森は、児童、保護者、地域、学校がともに力を合わせ、16年間かけて育ててきた憩いの森である。その「くずまきの森」を生かした教育活動を行い、また、「くずまきの森コンサート」を地域住民と共催するなど、地域との交流の場として活用している。「くずまきの森」とかかわる活動を、各学年が総合的な学習の時間や生活科、理科、図画工作科で展開している。

児童会の委員会活動を中心として、全校児童が希望する活動に参加する形態をとった。①野菜を自分たちで育てて、好き嫌いを少なくし、給食の残量が減ることを目指した。②グリーンカーテンを管理し、室内の温度を下げることでエアコンなどの使用を最小限にし、消費電力を抑えることを目指した。③学校周辺を自分たちの育てた花で美しく飾ることで、楽しく元氣な学校にしていくことを目指した。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

当校は、環境に優しい取組を通して、児童に地域の人や自然との多様なかかわりを尊重する態度や実践力が育つことを目指している。

そこで、環境教育の活動を基盤とし、教科学習や総合的な学習の時間、特別活動と関連させて、児童の①「豊かな情操」②「環境に対する多面的な見方・考え方」③「人や社会・自然との多様なかかわり・つながりを尊重する態度や実践力」を育てている。学年に応じた学習を段階的、継続的に実施することで、環境教育の根底となる「地域や自然を愛する心」を育むことにつなげている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

今年度の児童アンケートで「自分の住んでいる地域や見附のことが好きですか。」という質問に対して、肯定的評価が95%に伸びている。また、「自分の学校のことを好きですか。」という質問に対して、肯定的評価が94%である。

なお、保護者アンケートで「学校は、地域の特色を生かした学校づくりを進めていますか。」という質問に対して、肯定的評価は97%と高い数値であった。自然や人とかかわる活動を通して、生活の基盤である学校、地域への愛着と誇りが育まれている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

平成 13 年から地域と協働で育ててきた「くずまきの森」。16 年間で 80 種、約 500 本の樹木が育っている。これは、児童と保護者、地域住民、森を育てる会の方が年々範囲を広げながら、植樹や整備作業を行ってきた成果である。毎回約 350 名が参加する年 2 回の整備作業などにより、森は守られ、成熟期を迎え、地球温暖化防止の一翼を担っている。そして、活動を継続することで、児童、保護者、地域住民の環境保全に対する意識が高まってきている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

平成 24 年 7 月にくずまきの森の隣に地区ふるさとセンター・葛巻公民館が完成した。施設が森と隣接している立地条件から地区まちづくり協議会と熟議を重ね、森づくりが始まって以来継続してきた森のコンサートも恒例となった。また、森を活用して、くずまきの森イルミネーション、スノーフェスティバルなどの行事を企画・開催した。くずまきの森が、子どもから老人まで世代を超えた交流拠点となるとともに、地域住民の環境への意識を高めることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度は、実施しませんでした。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

子どもたちにとって葛巻小学校の自慢は、「くずまきの森」である。エコ活動とともに、くずまきの森とかかわる6年間の教育活動を通して、四季折々の森の変化は子どもの感性を育て、地球温暖化防止につながる地球規模の環境緑化に対する意識を高めていることはもちろんのこと、遊びや生活に深く根ざし森が人と人との絆を深める場として活用されるなど、児童の「生きる力」の育成に大きく貢献している。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

学校・保護者・地域が一体となって取り組んでいる「くずまきの森」の維持管理、グリーンカーテンづくりや資源回収などをはじめ、子どもたちが実践している花活動、節電・節水エコ活動、ペットボトルのキャップ回収などを継続して、一体感のある継続的な取組を実践していきたいと考えている。

今年度は、くずまきの森にある池の整備を自然委員会の子どもたちを中心に進めてきた。水源を確保し常に水がある状態を保てるよう管理することで、水生生物が豊かに生息する環境を来年度も継続していきたいと考えている。そして、今まで以上にくずまきの森に感心をもち、自然環境に関する意識が高まることを目指していく。

また、昨年度まで行っていた環境エコ活動を、今年度は子どもたちを中心とした活動へと導くため、全校児童一人一人が関心をもった三つのチームによる活動（食べるん、守るん、咲かすん）に希望制で自主的に参加し、活動するようにした。来年度もこの形態を継続しながら、活動をさらに深めていきたいと考えている。

今年度、「くず森カリキュラム」を作成した。来年度は、このカリキュラムを活用しながら、森に親しみ、森に憩う子どもたちを育てていく。